

# 復興工事請け負い、地域貢献

「県内に本社のある企業が震災復興工事を元請けで受注することの意味は大きく、社員に社会的意義を伝えている」と語る佐々木社長

## 中央コーポレーション・花巻



花巻市東宮野目の鉄構業中央コーポレーション(佐々木史昭代表取締役社長)は、東日本大震災の復興工事として、本県沿岸地域に15年間で150カ所以上の橋梁や水門、陸閘などを設置した。震災直後の応急復旧から復興工事、施設完成後の点検・整備まで地域インフラの整備に尽力し、日刊工業新聞社主催優秀経営者顕彰の地域社会貢献者賞を受けた佐々木社長は、古里のさらなる発展に思いを新たにしている。

## 地元が受注「社会的意義」

東日本大震災により、本県沿岸部では大小500～600カ所もの水門や陸閘が全壊した。県から応急対応の依頼を受けた佐々木社長は、当時副理事長を務めていた県鉄構工業協同組合(現在理事長)と連携し、沿岸部全域で水門・陸閘の開閉の応急処置や復旧・復興へ向けた調査などを実施。「非常事態なので自分たちが出来ることは何でもやる覚悟だった。最も貢献できるのが水門・陸閘の応急対応だった」と振り返る。

りも南側の地域を中心に大型工事を手掛け、それまで主力としていた橋梁より水門・陸閘の実績を多く積むことができた。復興後を見据え、2019年にさいたま市に関東営業所を開設。関東地

当社の社会貢献であり、震災復興の在るべき姿だったと思う」と佐々木社長。社員がやりがいを持って楽しく仕事をし、地域の豊かさに貢献することを経営ビジョンに掲げ、実現に力を注ぐ。

方では激甚化する水害対策として大規模な水門・陸閘などの改修工事が計画されており、震災復興工事を経験した先進地企業としての実績を生かし、さまざまな対策工事に参画できているという。

優秀経営者顕彰は、震災復興への貢献に加え、25年以上続いている地域の橋梁清掃や点検ボランティア活動、地元学生のインターンシップ受け入れなども推薦理由となった。贈賞式は1月に都内で行われ、佐々木社長ら地域社会貢献者賞4人を含め、全国から受賞者30人が出席した。

「県外の大手企業が震災復興工事を受注すると、製作、架設、完成までに支払われる材料費や人件費、経費などの支出はほぼ県外で行われるが、地元企業が受注、施工することで大きな金額が地元に戻元され、経済効果が得られる。それが

復興工事においては、水門・陸閘の全国大手企業と複数の共同企業体を構成。山田町、大槌町よ



丸島アクアシステム・中央コーポレーション特定JVが建設した釜石市の鶴住居水門(中央コーポレーション提供)